

資料3 国民体育大会44年のあゆみ

回	年次	特 色	開 催 地	参加者数
1	昭和21年	5,377人の選手が食糧持参で参加	京 阪 神 地 方	7,224
2	22年	国体マーク・国体の歌「若い力」できる。記念切手発行	京 石	17,302
3	23年	都道府県対抗の形が確立、天皇杯・皇后杯が創設された	福 島	22,288
4	24年	神宮外苑ラグビー場で夜の開会式。初めて天皇陛下からお言葉を賜る	東 京	17,526
5	25年	炬火が初めて点火され、日本復興の意気を示すように燃えさかった	愛 知	20,171
6	26年	原爆の傷跡が深く刻みこまれた地を集った若者たちはひとしく平和への願いを新たに。開会式に集団演技登場	広 島	17,285
7	27年	祖国復帰への希望をこめて沖繩初参加	福 島・宮 城・山 形	23,394
8	28年	全国的な地方財政の窮乏のなか「四国は一つ」を合い言葉で8月下旬に秋季大会を開催	愛媛・香川・徳島・高知	25,961
9	29年	8月下旬に秋季大会を開催	北 海 道	16,617
10	30年	国体10年目を迎え、県民運動を展開し県民総参加の態勢を確立	神 奈 川	20,021
11	31年	地方持ちまわりのモデル国体を示す	兵 庫	17,925
12	32年	初めて炬火リレーが行われる。東京以外で初めて天皇杯獲得	静 岡	19,016
13	33年	民泊で真心のこもった親切な歓迎。既存施設がフル活用される	富 山	18,941
14	34年	伊勢湾台風で三重・愛知・岐阜は出場辞退、旗手だけが入場行進	東 京	21,275
15	35年	東京五輪めざす選手強化みのる	熊 本	20,358
16	36年	「明るい国体」の県民運動みのる	秋 田	19,859
17	37年	「歴史をつくる岡山国体」を謳歌	岡 山	22,465
18	38年	「友愛・奉仕・躍進」をモットーに、伝統ある県民性を発揮し、花づくり県民運動が好評	山 口	22,893
19	39年	天皇・皇后杯初めて地元が獲得（東京オリンピック開催）新潟地震で夏季大会中止	新 潟	21,115
20	40年	国体も成人に、開会式の演出みごと	岐 大	23,683
21	41年	「剛健・友愛・信義」をテーマに名実とも「剛健国体」	大 塚	23,997
22	42年	国体史上初の選手村を開設	埼 玉	24,118
23	43年	明治百年記念「親切国体」として好評	福 井	24,256
24	44年	新たな意欲で「創造国体」	長 崎	24,742
25	45年	「誠実・明朗・躍進」のテーマで素朴な人情をみせた	山 口	24,759
26	46年	花いっぱい「黒潮国体」ブラジルの在留邦人も特別参加	和 歌 山	23,978
27	47年	本土復帰初めての沖繩が県旗をかかげ桜島も噴火・祝砲、	歌 兒	23,929
28	48年	祖国復帰の感懐と発展の願いをこめた「若夏国体」	鹿 嶋	3,342
29	48年	首都圏で話題となった「若潮国体」	千 葉	23,719
30	49年	広大な自然の中での開・閉会式は「史上空前で絶後」の華麗さを誇る	茨 城	23,778
31	50年	年ごとに華美になる国体に歯止め。新しい流れを与える	三 重	24,852
32	51年	地域の実情に即して、地方色豊かな国体像を描く	佐 賀	23,330
33	52年	冬・夏・秋季の全シーズンを通じて開催した史上初の完全国体	青 森	25,396
34	53年	長野方式を標榜し、質素のなかにも内容豊かな実りある大会を目指して開催した完全国体	長 野	25,430
35	54年	国体の原点を求めた県民総参加の手づくり国体で、心のふれあいを広める	宮 崎	25,996
36	55年	県民総参加の創意工夫を生かした手づくりによる個性豊かな国体	栃 木 (千葉・埼玉)	27,162
37	56年	冗費の節約と物量と時間の効率化に努め、県民総参加の実りある「びわこ国体」	滋 賀	27,564
38	57年	「このふれあいが未来をひらく」をスローガンとした「くにびき国体」は、簡素ななかにも心あたたまる国体でふれあいの輪が全国に広がる	島 根	28,233
39	58年	県民総参加による、健康で文化の香り高い国体を目指した「あかき国体」は、輝かしい未来に向けてより一層の飛躍を願った	群 馬	28,216
40	59年	県民総参加による民泊体制と競技の観客数は史上最高で、人情味あふれるふれあいの輪が広がった「わかき国体」	奈 良	28,338
41	60年	質素な中にも真心のこもった国体を目指した「わかとり国体」はあらゆる面で、文字どおり県民総参加の国体として県内各地で真心のこもったふれあいの輪が広がった	鳥 取	28,489
42	61年	国体史上初めて競技記録収集業務の電算化を図るなど先端技術を導入した「ニューメディア国体」	山 梨	28,790
43	62年	全国一巡目最後の国体。全国計画輸送が国体史上初めて実施された「海邦国体」	沖 縄	28,395
44	63年	「京都国体」—新しい歴史に向かって走ろう—	京 都	42,533
44	平成元年	「はまなす国体」—君よ今、北の大地の風となれ—	北 海 道	38,523

「はまなす国体」では、「歩くスキー」「カーリング」「綱引」「ゲートボール」の四競技が、四市四町で実施された。

（財）日本体育協会は、第一回大会から現在までの各大会の特色を大会ごとに

三、国民体育大会四十四年のあゆみ

評価をしているが、特に本県開催の第七回大会を「この年は我國の独立が実現しスポーツにあつては、十六年ぶりにオリンピックの参加が実現するなど、全国民にとつて忘れることのできない年であった。この年は、東北三県で開催されたにもかかわらず、競技運営をはじめ諸般のことが円滑に推進され、人間味溢れる歓迎に接した。」